

蒔絵文化と未来への継承

実施日：平成28年2月23日～3月7日 於：イタリア, スペイン, ポルトガル

■ 派遣専門家



下出 祐太郎

蒔絵師

京都産業大学 教授

下出蒔絵司所三代目として、伊勢神宮式年遷宮御神宝平文、京都迎賓館の飾り台の蒔絵を制作したことで知られる当代随一の蒔絵師である下出氏は、大学での学術調査や後継者指導も積極的に行い、伝統的な技術を守るだけでなく、発展させる活動を行われています。

■ 事業概要

● イタリア



フィレンツェ サンタマリア・ノヴェッラ薬局での講演会



ローマ 東洋美術館での講演会、デモンストレーション

● スペイン



パンプローナ ナバーラ美術館での講演会



ナバーラTVによる取材

● ポルトガル



グルベンキアン財団博物館での講演会



リスボン観光博日本ブースでのデモンストレーション

■ 実施結果

470年前の南蛮漆器といわれるヨーロッパとの交易の概要、蒔絵技術等について、講演やワークショップを通じて発信しました。一般の方、大学・美術館関係者、美術修復関係者等幅広い層に、講演やデモンストレーションを行い、日本の伝統技術だけでなく、交流の歴史についても広く伝えることができました。視察を行った南蛮漆器を所蔵する美術館とは、意見交換が活発に行われ共同研究の申し出も受けました。蒔絵の商品販売についても具体的な希望が寄せられ、販路開拓にもつながるものとなりました。プレス取材では、現地テレビ局・ラジオ局・新聞社・通信社等数多くの取材があり、メディア掲載は約30件にのぼりました。この事業を受けて、再度スペインの講演会へ招聘され、ポルトガルの美術館と共同研究を行い、商談も進むなど、具体的な交流にもつながる事業として発展中です。